

# 「平成29年度 看護師研修会」報告書

【期日】平成29年9月4日（月）

【会場】メートプラザ佐賀

【主催】佐賀県保育会

【参加者】123名

【内容】

・研修1 10:00~10:20

「基調報告」講師 指山健次郎 氏（佐賀県保育会会長）

・研修2 10:30~12:00

「愛と信頼を育む乳児保育」講師 蒲池房子 氏（清華こども園園長）

・研修3 13:00~16:00

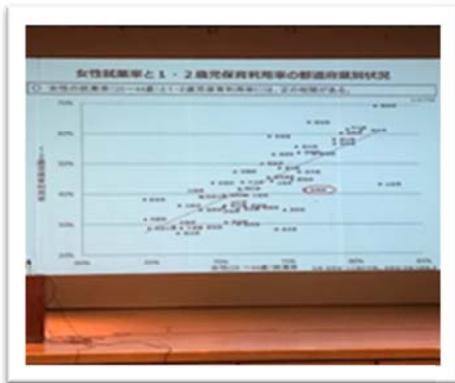
「小児保健の基礎知識と地域における保育の役割」

講師 尊田知美 氏（独立行政法人 国立病院機構佐賀病院 3病棟副看護師長）

## 研修1『基調報告』

講師 指山健次郎 氏（佐賀県保育会会長）

### 1. 保育を取り巻く現状



- ・女性の就業率が高まっていることに伴い保育園の利用率が上がっている。  
特に1・2歳児の利用が10年まえからすると倍になってきている。
- ・子ども子育て支援新制度により保育の在り方も多様化してきている。
- ・待機児童、保育の質の向上、キャリア不足等課題も多いが看護師の先生も保育士と共に子どもの命を守って頂きたい。

## 研修2『愛と信頼を育む乳児保育』

講師 蒲池房子 氏（清華こども園 園長）



<乳児保育を行うということは→人を育てるという意識をもって!!>

- ・乳児期は、人間が人間となるための基本的学習の時期。『人間としての心を育む』時。温かい人間関係の中で、愛と信頼によって育まれることが何よりも優先。
  - ・保育とは養護と教育の一体の保育。技術より一人ひとりと対話をしながら愛情をもって関わるのが重要である。
  - ・保育園はプロの集団（保育士・幼稚園教諭・看護師・栄養士・調理師）ミルクをあげればいいではなく、プロとして対話を通して伝えていくことで子どもを育てていく。
  - ・集団生活ではあるけれど、一人ひとり個々に対して配慮して愛をもって関わることで、人に信頼感がもてるように育てる。
  - ・新保育所保育指針を紐解きながら、この園は何を大事にしているのかを明確に共通認識し、チームとして子どもと関わる。
  - ・子ども達の一番近くで寄り添っている保育者。私たちの日常の言葉使いや行動、しぐさ、考え方、センス、生活、人間性の全てが子どもたちのモデルとなります。
- 『人』が育ちゆく崇高な保育の仕事に誇りを持って、人間性と専門性に磨きをかけていきましょう。

### 研修3 『小児保健の基礎知識と地域における保育の役割』

講師 尊田知美 氏（独立行政法人国立病院機構佐賀病院 3病棟副看護師長）



#### <医療的ケアとは>

- ・医療の進歩に伴い医療的な援助が必要な子どもが増加。
- ・医療的な援助は、原則資格を持った医師や看護師が実施するが、医師の許可があれば子どもの家族が日々の生活に必要な医療的な援助を行うことができる。
- ・医療的ケアには導尿、気管切開、吸引、酸素療法、経管栄養がある。

#### <医療的ケアが必要な子どもに対する保育者の役割>

- ・病気やその対応方法について知ることが大切  
(病気について園での制限について、周囲への伝え方について確認する。)
- ・普段の健康状態の観察と体調不良時の対応  
(体温・呼吸・皮膚の状態・姿勢・機嫌や泣き方)

#### <小児に多い病気の基礎知識と保育時の配慮>

- ・低体重児・ぜんそく・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・アナフィラキシー・慢性腎炎・てんかん・糖尿病・脳性麻痺・難聴・盲・口唇裂・口蓋裂などの対応と配慮事項を知る。

#### <効果及び評価>

乳児期は人間が人間となるための基本的学習の大切な時期。

『人間としての心を育む』時なので、私たち保育者は保育のプロとして、一人一人と対話しながら愛情をもって保育を行い、また私たちの仕事は子ども達の未来につながっていることを共通認識して保育にあたりたいと思う。

(文責：小部保育園 高須賀己成子)